

第14回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 平成30年7月18日（水） 13:30～15:30

【場所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：志立正嗣委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
中嶋聞多委員、貫名礼恵委員、藤井俊子委員、
石山武委員、瀬川智子委員、高尾幸男委員、
青木健太郎委員、上原梓委員、荻原確也委員、
佐藤一貴委員、鷹取健太委員

内 容

1. 開 会

○風土フォーラムの支援や住民参加によるエリアデザイン検討における仕組みづくり等の委託業務として、青山社中株式会社に請け負ってもらう。代表の朝比奈一郎氏には、「軽井沢町未来共創アドバイザー」として活動していただき、基本会議のファシリテーターもお願いする。

○A委員自己紹介（第13回基本会議欠席のため）

私が思う軽井沢の魅力は、森の中を散策すると味わえる木漏れ日や、軽井沢に滞在すると感じられる朝・夕の涼しさだと思う。魅力ある軽井沢だが、昔からの別荘文化も変化しつつあるため、舵取りを変えていかなければいけない時期がきたのではないか。基本会議では、皆さんの意見を若い人たちにも伝達しつつ、自分の知識も深めていきたい。

2. 議事

(1) 基本会議で取り組むテーマについて

○会長による基本会議で取り組むテーマ等についての説明

- ・基本会議では、目的を掲げ成果を出し、それをボトムアップして住民自治へと繋げていきたい。その為には、委員の皆さんから活発な意見をいただきたい。本日の議事では、具体化するようなテーマとして何が相応しいか議論していく。
- ・会議の効率化を図るため、事前に情報提供し意見を聴取した上で、基本会議に臨めるようにしたいので協力願いたい。
- ・風土フォーラムの浸透を目的に、町の団体（軽井沢観光協会、軽井沢町商工会等）のトップを基本会議に呼び、それぞれの立場で戦略を話していただく機会を設ければ、各団体に関わりのある人たちが集まり、風土フォーラムにも関心を寄せていただけるのではないか。今後は、ゲストを呼ぶことも検討したい。

○ファシリテーターによる進行

【導入】

ファシリテーター

風土フォーラムは、日本に例を見ない新しい試みである。前基本会議会長の言葉を借りれば、基本会議第2期は実証段階に入るなので、新しい民主主義を作る会議となる。ジョン・F・ケネディ氏の民主主義の原点となる「Ask not what your country can do for you, Ask what you can do for your country」（国家があなた達に何をしてくれるのかを求めず、国家のために何が出来るかを考えてください。）という言葉があるが、これに倣うと委員自らがプロジェクトを走っていく自走型と、50年100年先の時間軸を意識し、現在の住民のニーズだけでなく、将来の住民、更には軽井沢で過去に築いてきた文化を踏まえた上での、新しい民主主義として取り組む姿勢が必要となる。まずは、自らプロジェクトを動かしている、会長、副会長から話しを伺いたい。

会長

軽井沢リゾートテレワークに取り組んでいる。東京オリンピックは、内外から多くの人が押し寄せ、東京の交通網がパニックになる事が想定されるので、通勤者減少を目的にテレワークを広めようと活動している。また、豊かなライフスタイルを実現するため、軽井沢リゾートテレワーク協会を立ちあげ、軽井沢でテレワークの実証実験をしている。皆さんも、どうすれば町がよくなるかを考え活動してほしい。

副会長

チームみらいえプロジェクトのリーダーとして、構成員や外部の意見を聞きながら住民を巻き込み、軽井沢グランドデザインに繋がってきたい。

意見交換（発言順）

B委員

交通問題は、住民のニーズが高く喫緊の問題ではないか。この基本会議は、住民の豊かなライフスタイルを作る事が目的なので、環境負荷が小さく快適な移動手段が実現できれば、交通渋滞、排ガス問題はもちろん、多方面においても波及効果が得られ、観光と環境を両立できるのではないか。

C委員

交通問題は多くの人に関心あるテーマであり、それを基本会議で扱う事により、風土フォーラム自体にも目を向けてもらえる。軽井沢の50年、100年先に向けて、どういう交通の在り方がよいか、コンセプトを決め話し合えればよい。これは、自然環境を含めた整備、人々の交流、防災にも繋がるテーマではないか。

D委員

コンパクトシティと交通問題は、クロスオーバーするのではないか。コンパクトシティは町長からの提案で、風土フォーラムとして考える必要もあり、交通もただ動線を繋げばよいという話ではない。その点も併せて議論した方がよい。

E 委員

交通問題は、元々軽井沢に住んでいる人と移住してきた人が共に考える事ができる、身近な問題ではないか。住環境において、交通渋滞は解決しなければならない長年の課題である。

ファシリテーター

大きな概念の中には、様々な切り口がある。具体的に何が出来るかも含め議論していく。

F 委員

行政、議会、審議会等は主に目の前の緊急を要する問題に取り組むが、風土フォーラムでは、50年、100年先に重要となる問題に対して地道に取り組んでいく役割があると思う。風土フォーラムが住民参加型であるなら、住民が賛成派と反対派に分かれるような課題は成果を出すことが難しいため、多くの住民が50年、100年後を見据えて今取り組むべきと思えるテーマを取り扱うべきではないか。また、2年の任期で確実に成果が出るものとしたいので、外部に専門機関がある課題を選択すると議論は盛り上がっても前に進まず、相応しくない。それらを踏まえると、風土フォーラムは、軽井沢ランドデザイン、エリアデザインから端を発したので、まずはエリア問題に向き合い成果を出すのがよい。軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームで一つの成果が得られたので、他のエリアを選択し進めたらどうか。

健康・医療問題は、22世紀の軽井沢の新たな魅力を考える意味でも、重要なテーマに思える。また、防災問題は、軽井沢が安心・安全に暮らせる町になる為に相応しいテーマだが、他に審議会があるので、基本会議で取り上げるべきか議論が必要かも知れない。

テーマ設定した事が、必ずしも審議会、行政、議会等で取り上げられるとは限らないが、町長は、審議会等で取り扱う内容について権限があるので、課題を発見し、町長を通じて審議のテーブルに乗せるよう促すことも基本会議の役割ではないか。

G 委員

交通問題、エリアデザイン、健康・医療問題、防災問題の大前提にあ

るのは、人口問題ではないか。軽井沢町にある究極は、人間と自然である。軽井沢の人口は 100 年前から約 3 倍になったが、社人研の推計によると 2060 年の先にはまた 3 分の 1 になる可能性が高く、これはもう起こった未来と考えた方がよい。人数だけでなく、どういう人がどう動こうとしているかという将来に向けての「人口動態」について再検討し問題点を把握すれば、これまでにあがったテーマの解決に繋がってくるのではないか。

ファシリテーター

人口動態を把握する事は、色々なテーマを検討する基礎になるが、この基本会議において、それをどう予想して検討していくのは専門的な知識を要する気がする。今は具体的なテーマを決めて、それを進めていく事が必要ではないか。

G 委員

人口の研究ではなく、実務的に取り組みたい。町が持っているデータからより具体的な人口動態を把握してから、同時並行的に他のテーマに取り組んでいければよいと思う。

ファシリテーター

議論の前提としては大変役立つが、人口動態については個人的に進めていただくのがよいと思う。

H 委員

防災問題は、観光や環境も含めて考える事が出来るテーマである。また、生活のライフラインとして交通問題は重要であり、これも色々な問題に結び付く。つまり、軽井沢のブランド価値を 22 世紀まで残すために何をするのが大事である。

D 委員

各自がそれぞれのテーマを持ち、ディスカッションを超えて、実験的に実施していかなければ任期はすぐに終わってしまう。根本的な問題を議論する場と、個別テーマや各論についてディスカッションする場が必要ではないか。それこそが基本会議の意義である。

軽井沢の特徴として、新旧住民には考え方の違いがあり、それが町を

形成していく上で難しさとなる。新旧住民が共に理解し、創造的な場を作り上げてこそ軽井沢だと思う。そういう行動こそ、長期スパンで考えるべき議論となる。

専門的な立場から見ると、軽井沢は町全体として文化について考えてきたのか疑問である。外から来たA・C・ショー師が生み出したものを内の文化として取り入れ、独特の軽井沢スタイルを作った。私は「懐かしい未来」と呼ぶが、これまでの歴史の中で培ってきたものを、未来志向で考える必要がある。その根幹に文化がなければオリジナリティは出ない。新住民と旧住民が、共に創造的な議論ができ、実践に繋がる場を作るべきである。私は、明治時代に異国の人と一緒に取り組んできた解放型で住民と共に議論できる文化的サロンのような場づくりを、自走型で取り組もうと考えている。そして、その場で防災等のテーマについて、高致レベルで議論していきたい。

B 委員

交通問題には、高齢者対策や防災問題等の切り口も含まれている。50年、100年後の軽井沢を考えた時に、まちづくりや都市計画にとっても重要な軸となる。

I 委員

エリアデザインを考えていくことに賛同する。今後、軽井沢の人口が減少する事を前提に考えるべきであり、少子高齢化と密接に関係するのは、コンパクトシティだと思う。少子高齢化とコンパクトシティを真正面に捉え、まずは中軽井沢エリアについて進める事がよい。

H 委員

私が防災やまちづくりに携わる時、原則として「防災」という言葉を掲げずに取り組んでいる。今年 86 周年になる「南原の昔話を語り継ぐ会」の活動を通じて、子ども達が 100 年先までこの軽井沢を残したいという気持ちを持ってくれた。若者に地元を愛する気持ちや、高齢者を心配する気持ちが育つことが、最強の防災だと思う。

軽井沢には都会の人が憧れる学校（ISAK、建設予定の軽井沢風越学園）があるので、軽井沢に移住する人はいる。ブランド価値のある商品

を考えれば、人口動態も変化する。観光の町としての指標も必要ではないか。

J 委員

交通渋滞は、町民にとっての差し迫った課題ではなく観光客目線の問題ではないかと感じる。軽井沢グランドデザイン、エリアデザインについて議論するのがベストだと思う。

K 委員

繁忙期以外も住める環境と楽しめる環境が充実すれば、ある程度渋滞問題は緩和され、冬場でも若者が訪れ、労働者が年間を通して働いて、人口も増加する。冬場の定着が課題だと思う。

以前、ゲリラ豪雨で車が水没した経験から、横の繋がりを持つことが必要だと感じた。横の繋がりからコミュニティを形成すれば、移動手段の少ない高齢者の援助など、普段から助け合える活動が出来るのではないか。

ファシリテーター

広い意味ではコンパクトシティと繋がってくる。

L 委員

50年100年先に向けて、今何が出来るのかを考え、テーマ設定する必要がある。これを町全体で考えると様々なパターンがあり、まとまらないので、エリアを絞り住民が何を必要としているのかを捉えていくことがよいのではない。

軽井沢は人口減少自体についてはあまり心配しなくてよいと思うが、増えればよいということでもなく、適正人口をしっかりと捉える必要があると思う。

A 委員

町長の強い意向も示されているので、コンパクトシティについて考えた。静かな場所に住んでいる方から除雪や野生動物等の相談があるが、町は全てに対応できないことの理由づけが必要だと感じる。コンパクトシティの考え方を進めれば、交通問題、人口問題等の切り口も含め検討できるのではないか。

テーマを決めるだけでなく、その進め方についても多くの意見をも
らいながら検討すれば、面白いことができるのではないか。

【第1期会長コメント】

軽井沢グランドデザインの作成に携わった者として、痛いところ、悩
ましいところがたくさんあるが、そういう点を的確に捉え始めてもら
っていると思う。今日の議論は非常に進歩的で前途有望だと感じた。

【傍聴人コメント】

住民（男性、中軽井沢、別荘）

エリアデザインに興味を持った。現住民に新しい住民が加わり、エリ
アをよくする目的の下、協力し合える場が欲しい。中軽井沢がもっと栄
えてほしいと思っている。日帰りではなく長期的に訪れる人が、静かな
環境でゆっくり休めるようになって欲しい。また、野菜収穫等の生活的
な体験活動が増え、軽井沢町の発展に繋がればよいと思う。

【会長・副会長コメント】

副会長

活発な意見交換ができ、地域の方からも意見をいただけてよかった。

会長

テーマの決定については、我々に一任いただきたい。皆さんが考える、
安心して暮らせ、働けるまちづくりを、どのようにブレイクダウンする
のかがポイントになると思う。できるだけ早く意見を取りまとめ、問題
提起したい。

【会長・副会長に対する発言】

D委員

もっとスピード感を出した方がよい。テーマについては、職員委員も
含め具体的に議論を進めたらどうか。基本会議は、会長、ファシリテー
ターが主導的に進めてもらえればと思う。

会長

可能な限り早くテーマを決定し、各委員へ報告したい。今後も、効率よく会議を進行するため、各委員に事前に意見等を伺いたい。

H委員

会議を効率的に進めるには、その場で話している事を目に見える形にした方が早いので、模造紙やホワイトボードがあるとよいのではないかな。

私は、この基本会議で防災がテーマとして取り上げられなくても、個人的には実施していく。この会議で意見の出された人口問題、交通問題、中軽井沢エリア問題などを同時に進めたらどうか。

風土フォーラム事務局で実施している「気軽にトーク」に、基本会議委員が参加したらどうか。

ファシリテーター

テーマ等の決定については事務局側に一任をお願いする。安心して暮らせ、働ける軽井沢を、歴史を意識しながらどのように作っていくのかが大きな方向性になると思う。

本日の議論では、テーマ別、エリア別、事務局系（制度等の見直しが必要な課題）の3つのプロジェクトが考えられるので、内容を整理したい。

風土フォーラムに関わらず、自走していく事が真の意味での住民自治、民主主義となる。その中で、風土フォーラムを活用できると判断した場合は、基本会議に投げる形があってもよい。

スピード感ある会議とするため、発言に時間制限を設けること等によりクイック感を出していきたい。

B委員

事前に他の委員の意見も情報共有してもらえれば、更に効率よく会議が進められると思う。

ファシリテーター

可能な限り対応したい。

3. 閉 会